

## 国立公文書館内閣文庫所蔵の脈書 『紫虚崔真人脈訣秘旨』について

吉岡 広記

日本鍼灸研究会

### 1. 『紫虚崔真人脈訣秘旨』の書誌

1巻1冊(303函74号, 宋・崔嘉彦撰, 多紀元簡手跋本, 寛政3写, 附5巻). 日本四つ目鍼眼原装, 紙高267耗, 紙幅180耗. 外題は, 題簽がなく, 直接表紙に「紫虚崔真人脈訣秘旨 全」と墨書. 扉に多紀元簡の識語が「此書, 旧雑于官庫幼幼新書中. 辛亥[1791]夏抄而得之. 別装以改題簽云. 丹波元簡識」と墨書される. 序および目録なし. 蔵印記は「医学/図書」「躋寿殿/書籍記」「多紀氏/蔵書印」「日本/政府/図書」の4種. 本文は, 無界, 每半葉10行, 行17字. 注文は, 細字双行にて行34字. 本書が9葉表まであり, 続けて5書目が抄写される. 『玄白子西原正派脈訣』が10葉表から20葉表まで, 『玄白子相類脈訣』が20葉裏から24葉表まで, 『玄白子診脈八段錦』が25葉裏から32葉表まで, 『脈法微旨』が32葉裏から35葉から50葉表まで, 『敵三点脈法撮要』が50葉裏から64葉表までの都合64葉. 卷末(64葉表)に元堅の読書記が「執徐元默復月二十六日, 読于存誠藥室」と朱書される. 本書が, 『医籍考』卷十八の『崔氏(嘉彦)脈訣』に記された元胤の按語「按此書, 『東垣十書』, 『医統正脈』中所收, 其歌括耳, 若全文, 世從不知之. 秘府所蔵明鈔『幼幼新書』, 附録脈書五種, 首編則崔氏原書, 題曰「紫虚真人脈訣秘旨」, 今記題詞于此, 以訂正焉。」が指す『崔氏脈訣』の原書である.

### 2. 原書『脈訣秘旨』の構成と内容

本書の構成は, 総論(仮称), 四摠脈, 上焦寸口脈, 中焦関上脈, 下焦尺中脈, 五蔵見浮脈主病, 五蔵見沈脈主病, 五蔵見遲脈主病, 五蔵見數脈主病, 七表八裏摠婦之脈, 六極脈又若六絶, 五蔵六府所出, 七表八裏図の13項目からなる. 総論で王叔和の七表八裏脈は「文理甚繁」であるが, 「其枢要, 但以浮沈遲數為宗」と述べ, 四脈により「風氣冷熱」を弁別し, 更に寸関尺三部にて上中下焦を, 更に左右六部にて五蔵六府を診るのだと言う. 本論は, それに沿って展開される. 注目すべきは, 七表八裏脈を言うも, 併さるべき九道脈にはなんら触れない点である(通行本には見え, 著者の異なることを示す). 筆者は, 種々の点から九道脈の成立は北宋代と考えているが, 成立後も崔嘉彦をはじめ諸家はその取扱に苦慮していることも, 七表八裏脈に遅れて作られたことを示唆するものである. 七表八裏九道脈は, 崔嘉彦の生きた南宋代を堺に定着していき, 以降大いに盛行することになる.

### 3. 通行本『崔氏脈訣』と原書の関係

通行本は, 元胤が述べるように, ことごとく歌訣のみであるが, 逆に原書は歌訣を載せない. 奇妙にも, 原書に続けて附された元・張道中『玄白子正派脈訣』中の文字通り歌訣という項に同文があり, これに先だつ崔嘉彦の弟子の劉開が『方脈拳要』(現在, 北京図書館に延祐4年[1318]の序文が付された明嘉靖33年[1554]黄魯曾刊本が所蔵されるのみで, 明・劉純『医経小学』脈訣第二・方脈拳要に拠った)にも同文が確認される. ただし, 『方脈拳要』は劉開に仮託された書(『日本現存中国稀観古医籍叢書』65頁, 人民衛生出版社)で, 通行本が金・李杲の手を経たということも同様であろうから, 歌訣(通行本の原型)は張道中の作とするのが穏当である. 彼の序「大徳辛丑[1301], 既從鍊師得崔・劉四脈, 玄又乃拈其意, 為之図並歌括」から, 崔嘉彦の学統が劉開→朱宗陽(鍊師)→本人へと継承されてきたことが知れる. 劉開『脈訣理玄秘要』では九道脈が言及されるも原書の影響が色濃く反映されるのみで, 張道中に至って脈図や歌訣が新作されたのである. 原書は, 陶宗儀『輟耕録』に「宋淳熙中南康崔紫虚隠君嘉彦, 以『難経』於六難專言浮沈, 九難專言遲數, 故用為宗. 以統七表八裏, 而総万病」とあるから, 明初までは認識されていたようである. 宋以来の目録には見えず, 焦竑『国史経籍志』に初めて載る間に, 通行本に取って代わられたのである.